

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 年 三 月

春 風 春 雨

春風が吹くこともなく吹く。春雨が降ることもなく降る。

強い雨では洗ひ流されて仕舞ふ浅い芽である。荒い風では吹き散らされる小さい蕾である。

しかも、春風、春雨の心は、たゞに弱さに對するいたわりに止まらない。況して、そつと觸れ、そつとぬらして去る控へ目の淡さだけではない。斯くしてこそ、芽を自みづからに伸びさせるこゝが出来ぬ。蕾を自みづからに開かせるこゝが出来ぬといふ強い所信のこゝに、専ら生長のおのづからを助けようとしてゐるのである。

さればこそ、降ることもなしに降りながら、そのうるほひの豊に、深か〜と細密なる。吹くこともなしに吹きながら、その暖かさの普くひろ〜と周到なる。

春風、春雨の弱さ、微けさのこゝみを見て、そのなごやかさの裡に籠つてゐる強い濃い信念を感じ得ないものには、恐らくや、幼児の教育者の心は解せられない。

(倉 橋 惣 三)